

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	神奈川大学 理学部情報科学科	実施時期	2013 年度(後期)
対象学年・学期・人数	3年生 後期 履修生約 100 名		
講座名	情報科学特別講義		
連携企業・団体	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	上記協会が大学向けに、講座を行っていることを聞き、本学科の学生にも適切と思われたので導入を決めた。すでに数年前から経営学部においても、本講座が運営されており、本年度も同時開講した。		
連携の狙い、目的・目標	学生にとって、実務経験の豊富な講師から、企業における IT サービス業界の実態を聞くことができることは有意義であり、就職活動への準備としても、効果が高い。		
連携にあたっての課題・懸念	情報科学の個別分野の科学技術については、すでに学科として教育しているため、実務としての講義として、意義のある講義形態を取ってもらう必要がある。		
講座の位置づけ 既存講座との関係	既存講座は一通り、情報科学技術の科目がそろっているので、特定の科目を特定する必要はない。実務経験や実際のシステム設計開発の事例など具体的な内容が望まれる。		
履修前提条件	特になし。3年になれば、技術内容については十分理解可能と思われる。		

授業準備と実施の体制	授業支援システムにより、電子的に授業資料などを配布。アンケートやレポートなどはこのシステムによって電子的に運営実施している。
成績評価の方法	レポート、アンケート、臨時試験などを評価対象とする。

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分(1コマ=90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	シラバスは下記3の14回の講義を参照。 さらに、神奈川大学理学部のWebページを参照のこと。		

演習・実習の内容 必要なマシン環境等	貸予PCを持ち込んで授業に参加。無線LAN接続。
-----------------------	--------------------------

2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	SE とはどんな職業か、経験に基づく、具体的内容、必要は知識、資格などを知り、将来の職業選択への参考とする。講師の人生経験など、将来への展望への参考としたい。
受講者の感想（本講座で得られたもの）	<p>実際の経験、システム開発の具体例、プロジェクトマネジメントの仕方、コミュニケーション、ストレス対処法など参考になることが多い。</p> <p>さらに就職活動などにも有効である。</p>
先生の評価	<p>基本的に価値の高い講座である。</p> <p>講座内容の内容は当学科教員も受講したいという意見がある。</p> <p>講座の技術内容についてはすでに学科授業の中で履修済みのものもあるが、基礎的な内容で無く、企業における具体的な当該技術を用いたシステム設計もしくは技術適用の経験や問題点などについての内容が多く、学生にとっても役に立つことが多いと思われる。</p>
企業・団体による評価	<p>150名を越す学生にIT業界について知って貰える場を頂けたことは意義がある。毎回の講義にそれぞれの担当教授が積極的に関わって頂いて当講座への大学としての協力的姿勢を感じる。</p> <p>課題及び改善点としては受講対象となる学生が経営学部と理学部にまたがっており、講師の講義内容が焦点を絞りづらい所が上げられる。</p>
今後の展望（継続に向けた課題）	<p>講師の派遣については貴重な時間を割いていただき、深く感謝する。カリキュラムとして継続性が必要なので、この講座は継続していただくことが必要である。</p> <p>講義内容に関して、その技術をどのようにシステムに適用して設計開発したかというような経験に基づく事例やノウハウを中心にしたいので、学生にとって有意義である。</p> <p>残念ながら経営学部の講義は今年度で終了するので、情報科学科の学生向けに的を絞れるので、例えば、SE は文系のほうが向いているなどの文章を削除するなど小規模な修正が必要。</p>

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称 : 大学向けSE講座 講義形式 : SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義 : 01(ガイダンス) 講義 : 02(SEとは) 講義 : 03(SEのマネジメントスキル) 講義 : 04(情報システムの企画と提案) 講義 : 05(システム設計の概要) 講義 : 06(システムテストと運用テストの意義) 講義 : 07(情報サービス産業界の現状) 講義 : 08(データベースの知識) 講義 : 09(ネットワークの知識) 講義 : 10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義 : 11(プロジェクトマネジメント) 講義 : 12(SEのベーススキルと関連知識) 講義 : 13(特別講義、システム化事例紹介) 講義 : 14(授業全般の総括とまとめ)		

<p>企業・団体からの推薦コメント</p>	<p>神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。</p> <p>講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため 13 名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。</p> <p>講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。</p> <p>この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。</p>
-----------------------	---